



脳梗塞の予防

—心臓と脳は繋がっている—

指導：国立病院機構大阪医療センター 院長 是恒 之宏

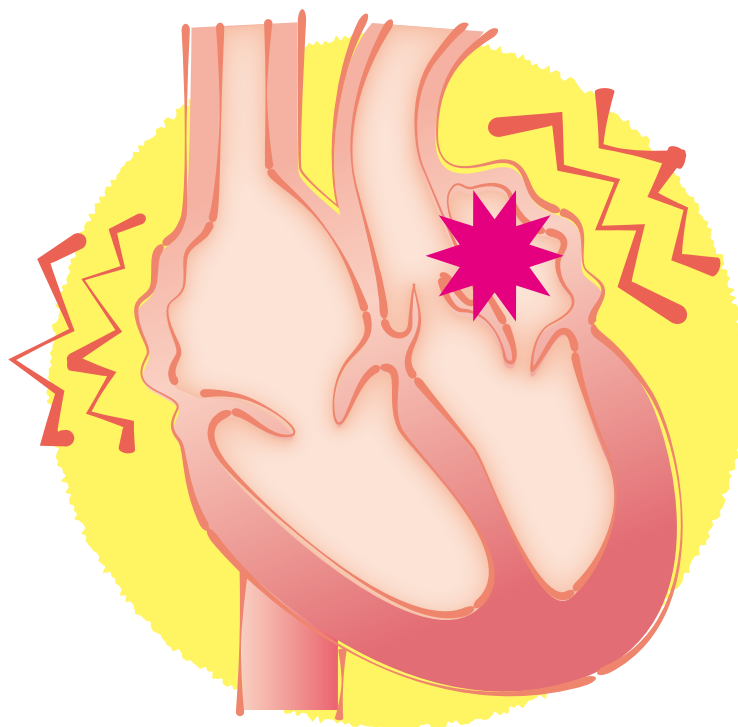
企画：
日本医師会

No. 490

怖い「心原性脳梗塞」

脳梗塞のなかでも最も重症で、たとえ一命を取り留めても寝たきりになったり、介助なしでは歩けないといった後遺症を引き起こすことが多いのが、心原性脳梗塞です。

脳梗塞には、脳の血管が細くなったり血の塊が詰まったりして起こるものもあります。心原性脳梗塞は、心臓と脳が血管で繋がっているため、心臓でできたゴミ(血栓)が血管を流れて脳にたどり着き、大きな血管が詰まってしまう病気です。



心房細動の症状

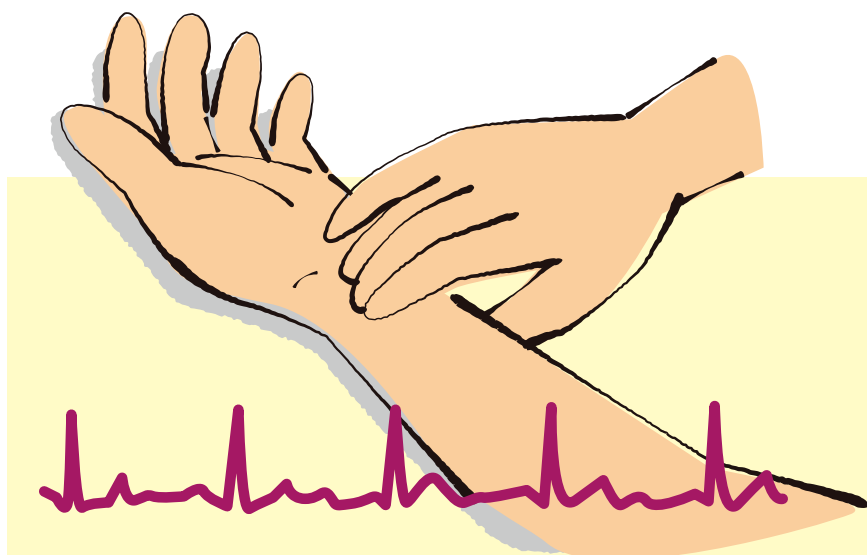
心臓に血栓ができる最大の原因となるのが、心房細動という不整脈です。心房細動になると、心房が麻痺した状態で血液がスムーズに流れていかないため、心臓のなかに血栓ができやすくなります。心臓のなかに血栓があるうちは全く症状がありませんが、これが脳に移動することで、突然半身麻痺や失語、意識障害などの症状が出てきます。

脈拍のチェックで血栓を防ぐ工夫を

心房細動の自覚症状は、胸がドキドキする、胸苦しい、息切れなど、他の病気でも見られる症状が多いため、自分では判断できません。全く自覚症状がない方もいます。

自宅で血圧を測っている方は、いつもより脈が時々早くなるようなら、早めにかかりつけの医師にご相談ください。

予防には血栓ができないようにすることが重要で、血栓を防ぐ飲み薬などが有効です。また、脱水症状にならないよう注意しましょう。



心房細動を見つける方法

脈は自分の指でも取ることができます。正しい脈の取り方は、日本脳卒中協会・日本不整脈心電学会作成の「心房細動週間ウェブサイト」で紹介しています。

<http://www.shinbousaidou-week.org/selfcheck.html>